第２部
基本構想

2

1．まちの将来像

第８次鷹栖町総合振興計画の策定にあたって、町民アンケートを実施するとともに、鷹栖町の未来をつくる会や地区ごとのワークショップを開催するなどして、多くの町民が「鷹栖町で実現したい暮らし」「鷹栖町の目指すべき将来像」について意見を出し合いました。

その結果、「あったかす」という言葉に象徴される、今ある鷹栖町の住み良い暮らしと魅力を持続したいという思いを再認識し、分かち合いました。鷹栖町がこれまでまちづくりのテーマとしてきた「あったかす」は、初めて聞く人には単なる語呂合わせのようでもあり、人のつながりや笑顔が魅力といっても、ありふれているように感じて目新しさがないのかもしれません。ですが、この町に住んだ人や、この町とつながった人は、「ああ、こういうことなんだ」と、これらの言葉が心の奥で染み渡るように実感でき、「あったかす」な町の魅力を大切にしたいと考えています。

第６次鷹栖町総合振興計画から 20 年にわたって取り組んできた、住民力・地域力を活かした「あったかす」なまちづくりは、町民の取り組みの積み重ねにより、この町の基盤となりつつあります。この強みを将来にわたって大切に継承しつつ、鷹栖町の良さや資源をもっと輝かせる前向きな挑戦を続けることを決意します。単なる現状維持ではない創造性を持った「継続と前進」で、未来にわたって持続可能な次の鷹栖町をもう１度創り上げる 10 年間としていきます。

人口減少が進む今後の 10 年間において、住民主体のまちづくりの重要性は一層高まっています。ワークショップの開催などを通して、私たちは、都会や周囲と比較して「ないもの」を嘆くのではなく、足元の暮らしや資源を見つめなおし、「今ある」幸せや豊かさを再認識し、大切にしたいと気づきました。豊かな自然環境と人の営みが織りなす美しい風景、開村以来地域を支え受け継がれてきた農業の営み、安全で安心な暮らしを支える地域の絆、素直で元気な子どもたちの姿‥。人口（人の数）ばかりを競って疲弊するのではなく、人幸（人の幸せ・笑顔）を大切にすることで、共感する仲間を自然と増やして活性化したいと感じました。

以上の思いや決意が込められた「まちの将来像を表現するキャッチフレーズ」を導き出すため、町民の皆さんにキャッチフレーズを考えてもらうワークショップにも取り組みました。そこでの成果をもとにさらに意見交換や議論を積み重ねて、まちづくりへの思いを次の言葉に凝縮し、今後 10 年間のキャッチフレーズとします。

◆まちづくりのキャッチフレーズ◆

笑顔 幸せ　みんなでつくる　あったかす

第７次総合振興計画では、すべての人が笑顔になれる「みんな　笑顔で　あったかす」なまちを目指してきました。そのベースを引き継ぎつつ、さらに発展させていくという思いが、３つのフレーズに込められています。

『笑顔 幸せ』

これまで積み重ねた、一人ひとりの「笑顔」を大切にするまちづくりを持続して一層高め、誰もがもれなく「幸せ」を実感できるまちを目指したい。このまちに生まれる一つ一つの笑顔が、つながって輪となり広がることで、すべての人が幸せに包まれるまちを実現したい、という思いを込めています。

『みんなでつくる』

「笑顔」にあふれ「幸せ」を実感できる暮らし。それは他人任せで誰かがつくってくれるものではなく、町民や団体、行政など、それぞれみんなが意識を持って関わり合って創り上げていくものだという決意を、「みんなでつくる」という言葉に込めています。

『あったかす』

たくさんの「笑顔」が広がり、「幸せ」にあふれるまちを、「みんなでつくる」。その先には、町民一人ひとりが「このまちで暮らして良かった」と、「あったかす」を心から実感できる未来があるはずです。

鷹栖町は、あらゆる立場の町民、子どもからシニア世代まで一人ひとりの暮らしの希望を追求し、幸せを実感できる地域社会の実現を目指します。

2．まちづくりへの決意

これからの 10 年間は、これまでにない人口減少、少子高齢化による人口構成の変化が予測され、地域コミュニティや地域の経済、公共サービス、町財政などのあり方へ、大きな影響を及ぼすことが見込まれます。こうした大きな変化の時代を迎えるにあたって、直面する課題を克服し、住民がそれぞれの希望を実現させ、幸せを感じて笑顔で暮らすことができる、まちの将来像を実現するためにはどうすべきでしょうか。

まちづくりとは、このまちに暮らす人の日常づくりです。未来に向けて日々の暮らしをより良いものへと創り上げるためには、「このまちに暮らす人が主体となって関わること」「町民と行政とが将来像を共有して寄り添いながら歩みを進めていくこと」が必要です。

私たちは次のとおり決意して、社会の変化に適応する 10 年間のまちづくりに取り組んでいきます。

（1）町民の決意
「まちの未来＝自分の未来　まちづくりを我がごととして捉えます」

このまちに暮らす人の日常をつくっていく（＝まちづくり）とき、主体となるのは当事者である、まちに暮らす人＝町民です。町民が自らの意思で、「こういう暮らしを実現したい」「こんな人生を歩みたい」という未来を示し、その実現に向かう取り組みを側面支援するのが、本来のまちづくりの姿です。行政が先に存在してそこに人が暮らし始めたのではなく、そこに住んでいた人たちの暮らしを支援する必要が生じて、そのために行政ができたのです。

「町民が主体のまちづくり」とは、従来から言い続けられてきましたが、人口減少、少子高齢化が進むこれからの社会においては、その必要性と役割がより一層重くなります。担い手が少なくなるなか、必要なサービスや機能を維持していくためには、一人ひとりの意識と姿勢、行動によって、まちづくりへの参画総量を高めていくことが必要です。

町民一人ひとりが、自分の未来を考えることと、まちの未来を考えることとが同じ意味を持つことを認識し、まちづくりを「我がごと」として捉え、日常の暮らしをより良くするための行動を積み重ねます。小さな一歩であったとしてもできることから、その積み重ねが鷹栖町のまちづくりの大きなアクションへとつながります。

（２）行政の決意
「限られた財源を有効に活用し、資源を生かした創意工夫に取り組みます」

かつてのまちづくりは一般的に、人口の増加やまちの拡張を前提としたビジョンを描き、公共施設の整備や施策への投資を進めてきたといわれます。しかし、人口減少が前提となるこれからのまちづくりにおいては、その変化を正しく捉えることが必要です。人口規模や構成の変化、それに伴う税収の影響などを適切に分析し、身の丈にあった投資と選択を進めていくことで、持続可能なまちの姿として未来の世代へバトンを受け継いでいくことが求められます。

一方で、「（お金が・人が）ないからできない」ではなく、地域の資源に目を向けて、「こうすればできる」と、より一層の創意工夫によって地域の創生を進めていく姿勢が不可欠です。

現在の町民はもちろんのこと、未来の世代の町民の人生にも寄り添い、大きな時代の変化のなかで、持続可能なまちの姿を追求するため、これまで以上に財源の効率的な活用を心がけ、創意工夫によるまちづくりに取り組みます。

（３）連携の決意
「町民と行政、団体、民間組織など、チームで新たな風をおこします」

人口が減少するなか、まちづくりへの参画総量を高めるためには、個々の活動を単に足していくだけではなく、掛け合せる「かけ算」によってその力を高めていくことが必要です。住民活動やＮＰＯ、企業、域外に住みながらまちづくり活動に関わる「関係人口」など、これまで以上に官民連携の視点をもって、あらゆる知恵や力を結集して、まちの魅力を高めていく姿勢が求められます。

鷹栖町の目指す姿や魅力をチームとして共有し、共働していくことで、まちに新たな風を起こせば、その姿に共感した新たな担い手の参画も期待できます。

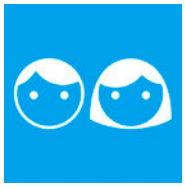
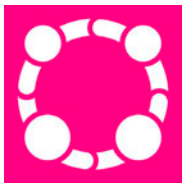
あらゆる関係、つながりを生かし、オール鷹栖で課題の克服に取り組む連携の視点を大切にします。

3．基本目標

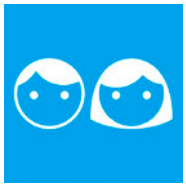
町民がまちづくりを我がごととして捉え、町民と行政とで一緒になって取り組みを積み上げていくためには、町民にとってイメージがしやすい、わかりやすい計画とすることが大切です。

そのため、ワークショップなどの取り組みにおける町民意見から、町民の日常の暮らしにひもづく５つの視点を抽出しました。そして、その視点ごとに、関連する町民意見を集約化していくことで、それぞれの基本目標へと導きました。

鷹栖町の将来像を実現するために、以下の５つを基本目標とします。

視　点	基　本　目　標
人 	あらゆる世代が幸せを追求する 人が輝くまち
暮らし	あらゆる人の希望に寄り添う 幸せな暮らしを実現するまち
しごと	あらゆる地域資源を活かす 幸せなしごとをつくるまち
環境	あらゆる安心を未来へとつなぐ 幸せな環境を持続するまち
交流 	あらゆる人が関係して高めあう 幸せな交流があるまち

人



◆基本目標１◆
あらゆる世代が幸せを追求する　人が輝くまち

鷹栖町の良さ、強みは何であろうと話したとき、多くの町民が、このまちに暮らす「人」の魅力だといいます。長きにわたって地域で支え合い、助け合って暮らしを積み重ねてきたつながりの強さ、オープンマインドで新たな人を歓迎する温かさ、優しく見守りながら時にそっと手を差し伸べる、ほどよくおせっかいな住民性などがあげられます。

大きな社会変化を迎える今後の 10 年間において、地域の課題を克服し、将来にわたって魅力ある地域を創り、持続していくためには、何より本町の強みである「人の力」を磨き上げ、より一層高めていくことが必要です。

あらゆる世代の町民が、それぞれのニーズに応じて学びと成長を実現でき、誰もがふるさとへの誇りと愛着を実感できる、人が輝くまちづくりを進めます。

暮らし

◆基本目標２◆
あらゆる人の希望に寄り添う　幸せな暮らしを実現するまち

本町では長きにわたり、福祉と健康に重点をおいたまちづくりを継続してきました。このまちで生を受け、このまちで人生を終えるまで、ライフステージのどの場面においても、健やかで心豊かに、つながりを感じて安心できる暮らしを送ることが、町民の誰もが希望する日常です。

また、近年は、「支え手」「受け手」という関係や「世代」「分野」を超えて、あらゆる立場の人が互いに役割を持って生きがいや暮らしをつくっていく、地域共生社会の構築とともに、貧困や孤立といった課題にきめ細やかに、かつ包括的に寄り添い、誰一人取り残さない社会の実現が求められています。

妊娠期から出産、子育て、子どもから高齢者まで、ライフステージのあらゆる場面で希望を叶えて笑顔で過ごせるまちづくりを進めます。

しごと

◆基本目標３◆
あらゆる地域資源を活かす　幸せなしごとをつくるまち

開村以来、百数十年にわたり、本町は農業を基幹産業として発展してきました。オサラッペ川が町内を貫流し、周囲に田園が広がる自然豊かな環境は、本町の大きな魅力であり、農の営みは今もなお、町民の暮らしと密接にあるものです。

変わらない姿がある一方、農業を取り巻く情勢は時代とともに目まぐるしく変化を続けてきました。担い手の減少と高齢化とともに、農村部はいち早く人口減少という課題に直面しています。水稲を中心とする本町の農業において、経営耕地面積が 20ha 以上の農家はここ 10 年間で倍増しており、担い手への集積で大規模化が進む一方で、施設野菜の作付面積は減少しています。

一方で、豊かな自然環境と都市と隣接した優位性のある立地、長年にわたって培われてきた産業技術や文化的資源、風土とともに育まれてきた地域性など、鷹栖町の持つ潜在力は多くの可能性を有しています。豊富な地域資源をあらためて磨き上げることで多様性のある力強い産業を構築し、すべての人が豊かな地域資源の恵みを実感できるまちを目指します。

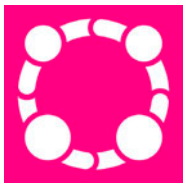
環境

◆基本目標４◆
あらゆる安心を未来へとつなぐ　幸せな環境を持続するまち

鷹栖町の豊かな自然や人々の営みが織りなす風景は、町民の心を穏やかにし、暮らしの充実度や安心感を高めます。町内のどの場所からでも、辺りを見渡せば広がる農村風景の四季折々の姿に、心を満たされる町民は数多くいます。また、人と人とのつながりを軸に、暮らしを支えるインフラ整備など、安全で安心できる暮らしを持続するための基盤となる環境整備は、現在はもちろん、未来をしっかりと見据えた継続性のある取り組みが求められます。

本町の魅力ある環境を守り育て、今この町に暮らす町民と未来のこの町に暮らす町民がともに、安心して生活を営むことができる環境を持続させていくという視点を持って、暮らしを支える基盤づくり、暮らしを豊かにする環境づくりを進めます。

交流



◆基本目標５◆
あらゆる人が関係して高めあう　幸せな交流があるまち

まちづくりの参画総量を高めていくには、個別の活動にとどまらず、町内外の様々な立場の人の関わりによって取り組みや成果を広げ、発信してさらに仲間を増やしていくという、幾重にもつながりを連ねていく好循環が必要です。町内で仲間を広げる取り組みはもちろん、人口減少が進む近年ではさらに、域外に暮らしながらまちのファンとしてまちづくりに関わる「関係人口」の視点が重要であるといわれています。

大小さまざまに、あらゆる世代や立場の人が関わりあい、その活動が連なって大きな輪となるように、町内外につながりづくりを進めます。